山村地域の学校再編基本方針

1　方針の目的等

（1）目的

・山村地域では、少子化の進行に伴い学校の小規模化が加速度的に進み、こども同士が直接関わり合いながら協働的に学ぶ機会の減少など、育みたい資質・能力の形成に向けた様々な課題が生じています。また、社会環境の変化に伴い、地域のつながりの希薄化など、まちづくりの面においても対応が求められています。

・一方で、山村地域の学校は、「一人ひとりの個性を生かし伸ばす教育」や、「豊かな自然・地域資源を生かした学習」など、地域ならではの特色ある教育を展開し、郷土への愛着やコミュニティ形成に重要な役割を果たしてきました。こうした山村地域の教育的価値を継承しながら、第５次教育行政計画に基づき、新しい時代に対応した魅力ある教育環境の充実を図ることが必要です。

➡ 今後の山村地域における学校再編に当たっては、**こどもたちの教育環境の向上を中心に据えるとともに、将来を担うこどもたちが安心して住み続けられる地域社会の維持・発展も視野に入れながら、**山村地域の暮らしを支える持続可能な地域づくりにつながるよう、基本となる考え方を整理します。

（2）対象地域

・山村地域（旭地区、足助地区、稲武地区、小原地区及び下山地区）

※各中学校区単位での学校再編を基本とします。

2　山村地域の学校再編の基本方針

連続性、系統性を生かした先進的な教育の推進

○小中一貫教育の導入による「探究的な学び」の深化

○新しい時代に適応した教育を支える空間づくり（学校施設の統合、改修等）

地域とのつながりや郷土への愛着を育む山村ならではの学びの創出

○地域資源を生かした学び・体験の場や機会の充実

○学校・地域の活動をつなぎ、様々な人が出会い、交わる学校施設の有効活用（多機能化）

まちづくりとの一体的な検討による地域の活性化

○学校・地域の連携による地域づくりや多世代、多様な関係者の交流を促す取組の展開

○学校跡地の活用等による地域の魅力、活力の増進に向けたまちづくりの取組の展開

【学校再編を進める上で考慮すべきこと】

こども・保護者・地域との対話　／　こどものケア、保護者の負担や学校運営への配慮　／　通学環境の確保　／　跡地の活用　／　地域とのつながり

3　学校再編の進め方

○地区ごとの学校再編を進めるに当たっては、**住民との丁寧な対話**（住民参加型ワークショップ、住民説明会等）を重ねながら、市が地区ごとの**「学校再編構想」**として取りまとめ、具体化を図ります。

※対話においては、**望ましい教育環境について住民と議論・共有**し、合意形成を図ります。

○住民の考え方や地域の機運等を踏まえ、**具体的な進め方については地区ごとに決定**していきます。